

『女性スポーツ』という言葉が耳にする機会が今までに多くなくなり、新たなブームのようにさえ感じられます。9年目を迎えたWSFジャパンの活動も、一つの転機を迎えようとしています。この1年間の活動を「報告」します。

1981年にスタートしたWSFジャパンの活動も9年目に入りました。運々たる歩みではありますが、これまで地道ながら独自の活動を行ってきました。しかし、「活動内容が具体的によくわからない」という声も多く聞かれるようになってきました。

その様な声がある一方、最近いくつかの企業から、WSFジャパンの活動に協力したいといううれしい話が届くなど、社会における女性スポーツへの対応もだいぶ変わってきたようです。そこで、この機会を一つのステップに、WSFジャパンの組織の強化と活動方針の明確化を図ることになりました。まずはこの1年間の活動内容を「報告」します。



用に関する要望書を提出
12日「要望書」提出に関し会員に報告書を発表
18日・日本レクリエーション協会

レジャー・レクリエーション研究所「働く女性のためのレクリエーション・サービスに関する研究」に参加

8月3日・専門委員会設置準備委員会
5日・日本レクリエーション協会主催シンポジウム「レジャー意識を考える」に出席し女性の立場からのレジャーの問題を提言

2月17日・昭和の女性スポーツ史」の記事を報知新聞に掲載
6月・WSFジャパンに対する意見アンケートを会員対象に実施
・月刊「体育科教育」に「女性スポーツの課題と展望」の原稿掲載
6月30日・'89年度臨時総会
7月7日・体協とJOCへ女性役員登

うこともあげられ総会において決議されました。(活動内容については別項及び8ページ参照)
今後は、これらの委員会が中心となって、活動をしていきます。

要望書

財団法人 日本体育協会
会長兼代行 青木半治郎
今般の日本オリンピック委員会の法人化に伴う財団法人日本体育協会の寄付行為改正に当たり、私どもWSF JAPAN(女性スポーツ財団日本支部)では女性理事の登用と「女性スポーツ委員会」の設置を、強く要望することを決議しました。

昨今の女性スポーツへの普及は目を見張るものがあります。特に一般の女性スポーツ志向は高まるばかりで、従来のレジャー種目、テニスといった、伝統的な女子種目、ばかりでなく、マラソン、エアロビクス、ゴルフなどのほか、サッカー、ラグビー、アイスホッケー、トライアスロンなど、その広がりは驚くばかりです。
また、社会体育の分野においても、女性指導者が急激に増えてきているのが現状です。このような、女性スポーツ・ブーム」の時代にあつて、生涯スポーツを振興するためには、女性と男性とは全く異なるライフスタイルを持っている事実を認識し、そこから各種振興策を打ち出していくことが大切だと

考えます。その意味で、「女性の立場を代表する女性理事を少なくとも1人登用すること、そして、女性スポーツの問題を医学、心理学、社会学など、かわりのあるあらゆる分野から検討し、より現実に対応した普及・振興策を考え、実行していく」「女性スポーツ委員会の設置」の2点を強く要望します。1989年7月7日

WSF Japan(女性スポーツ財団日本支部) 代表 ニッ谷洋子

WSFジャパン専門委員会

「広報委員会」
WSFジャパンのPR活動及び会員増強活動
機関誌「WSF Japan News」の企画・制作・発行 など
「事業委員会」
「女性スポーツ110番」(栄養、トレーニング、サークル情報、運動生理などに関するテレホンサービス)の設置にむけての活動
「女性スポーツ京都会議」などの企画
「調査研究委員会」

研究を先行し、具体的なデータにまとめWSFジャパンの活動に生かす
「体協とJOCに女性役員を送る委員会」
体協及びJOCに提出した要望書に基づき、今後も両組織に女性役員登用を働きかける

28日・韓良順氏を招き「日本と韓国」の女性スポーツについて語り合う会」開催
・'89年度総会
・専門委員会発足

30日・第4回女性スポーツ京都会議開催(京都商工会議所)
9月・総会報告書発送
3日・広島文化デザイン会議「優勝・国際スポーツ作戦会議」に出席
12日・第1回事業委員会
・第1回調査研究委員会
27日・第1回広報委員会
10月6日・第2回事業委員会

13日・第40回日本体育学会全体シンポジウム「体育・スポーツ政策の課題と展望」保健体育書講義の答申をめぐって」に出席し女性スポーツの問題を提言
20日・第2回広報委員会
21日・第31回健康・体力づくり運動推進全国大会長崎大会シンポジウム「21世紀のスポーツを語る」に講演
11月・体協とJOC女性理事及び女性スポーツ委員会候補者案作成

開始
・月刊「体育科教育」11月号に「京都に定着した女性スポーツ会議」の原稿掲載
10日・第3回事業委員会
・第3回調査研究委員会
・第1回体協とJOCに女性役員を送る委員会
12月9日・東京都コミュニティ・リーダー交流会で「女性スポーツの国際化」について講演
10日・年末懇親会

昨年、それまで体協(財・日本体育協会)傘下の一委員会だったJOC(日本オリンピック委員会)が独立して財団法人となり、それに伴い体協、JOCとも新しい人事で活動を進めることになりました。女性役員登用への働きかけはこの時が最適と考え、7月7日に要望書を提出しました。(要望書の詳細は次ページを参照。なお、JOCへの要望書は紙面の都合で省略)WSFジャパン専門委員会の設置に関しては、組織の活動内容の明確化はもとより、会員も活動し易くなるとい

SEIKO SPORTS ダイバースキューバ
この機能は、海を愛する人のために。
海中を魚たちのように泳ぐ時、人はどうして静かに呼吸し続けられるのか。それは海が海の塩分濃度を調節している。これと同じように時計は海に深く潜る人々の時計で、水深200m以下の海の圧力に耐え、正確に時間を刻み、針・文字・ベゼルを真鍮製の海中で20cmはなれたところから判読でき、300ガワスの耐磁性をもち、100メートルを分単位でクリックできます。国際標準化機構(TSO)のスキューバ規格をこころよくクリアする。ここで、この時計は、野生を取り戻したのです。セイコー・スポーツダイバースキューバ。都市に接する人が海に抱かれる時の新しい時計。